

単元づくりの4つのステップ

単元構想シート

	単元名：お話、大すき！『世界に1つだけのお話を作ろう。』 「絵を見てお話を作ろう」		
＜ステップ1＞単元として付けたい力を確定する ○年間指導計画（マトリックス表 年間単元重点一覧表）を活用して年間を見通した上で、この単元でどのような力を付けたいのか、学習指導要領の指導事項の中から確定する。	指導事項 B（1）ウ 文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章をかくこと。 オ 書いたものを読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合うこと。		
＜ステップ2＞言語活動を確定する ○ステップ1で確定した付けたい力を育成するのにふさわしい言語活動を適切に選定する。指導事項と言語活動を組み合わせて考えることで、付けたい力をできるだけ具体的におさえる。 ○言語活動を位置付けることによって、子ども自身にとっての相手意識や目的意識に応じた学習活動を可能にすることができる。	言語活動 お話、大すき！『世界に1つだけのお話を作ろう。』 ☆絵から想像を広げて、場面と場面がつながるように物語を書き、お話発表会をする。		
＜ステップ3＞言語活動を遂行するための能力をリストアップし整理する ○取り上げた言語活動をもとに、付けたい力を具体的なレベルで明らかにしていく。その能力の全てを1つの単元で重点的に指導するのではなく、下記の点のさびわけが必要。 ① 当該単元で重点的に指導するもの ② 前単元までに既に身に付いている能力なので、当該単元では、それを活用させるもの ③ 子どもたちの実態に照らして、まだ指導するのは難しいため、重点的に扱うのは次単元以降に回し、本単元では手厚く手立てをとり、活動が円滑に行われるように支援するもの	必要な能力 ①＜重点＞絵から場面の様子を想像し、登場人物の行動や会話を中心に場面のつながいを考えて物語を書く力 友だちと読み合うことで良いところを伝え合い、さらに自分の物語づくりに生かす力 ②＜既習＞主語と述語を使って文を書く力 順序を表す言葉を用いて文と文をつなげる力 「時」「場所」「人物」に着目して、物語の場面をとらえる力 ③＜支援＞自分の書いたものを読み直して、間違いに気づき、正す力		
＜ステップ4＞リストアップした能力を育成する指導過程を構想する ○子どもの実態を十分踏まえた指導過程の構想が大切。陥りがちなのは、「読むこと」において、単元の第三次での言語活動は活発に行えるように指導過程を組むが、第二次で教材文を読む時は、段落ごとに平板に読み進めてしまうというケース。第二次においても、子どもたちの「気になる」「不思議」「調べたい」などといった主体的な思考や判断を生かせるような場の設定が重要。 ○教材を読む第二次では、場面や段落ごとに読み進めるのではなく、指導事項に対応した指導過程を工夫する。 ＜教材を読むポイント＞ 物語文・・・「登場人物の行動」「登場人物の性格」「中心人物の変化」「情景・心情描写」「優れた叙述」 説明文・・・「順序」「中心となる語」「事実と意見の関係」「要旨」「自分の考えを明確にして読む」など	単元計画 一次 2時間 ①1学期に学習した「たんぼぼの学習（ひみつカード）」をもとに図書の時間に作った友だちの紙芝居を聞き、お話を作る楽しさを想起する。教師のモデル「お話、大すき！『世界に1つだけのお話を作ろう。』」を見て、単元のゴールイメージを持ち、学習の流れを見通す。お話発表会に向けて、「世界に1つだけのお話を作ろう。」という意欲を持つ。 ②物語の書き方を理解する。 二次 6時間 お話、大すき！『世界に1つだけのお話を作ろう。』に向けて ③3枚の絵を見て、どんなお話にしたいか考える。それぞれの人物の会話を想像する。 ④絵から場面の様子を想像し、場面と場面がつながるように物語を書く。 ⑤⑥絵をよく見て、絵から場面の様子を想像し、場面と場面がつながるように物語を書く。 ⑦⑧友だちのお話を読み、場面のつながりやすくてきな表現「きらりことば」を見つける。自分のお話を読み直し、友だちのお話で見つけた良いところや「きらりことば」を生かして、直した方が良いところや付け加えをして、清書する。 三次 1時間 ⑨自分たちの作った「世界に1つだけのお話」発表会を開き、良いところを見つけて感想を伝え合う。 絵から想像を広げて、場面がつながるように物語を書くことができたかを振り返る。		